

映像フェスティバルについて

毎年秋にOMC・関西シネクラブの両クラブ共催の映像フェスが行われていますが、ここ2～3年の様子から見ますと、あの広い朝日生命ホールをいっぱいのお客で埋めるのは至難のことのようです。そのために高い使用料を払って、よそのクラブにはない会費の高騰、高い出品料など問題が出てきているのではないのでしょうか。たしかに豪華な会場で広い画面一杯に創作作品を上映する快感は得難いものがありますが、そのことによって生じる諸問題をここで反省する時期に来ているものとも考えられます。経費のかからないより小規模な会場を探してそこに変えるか、今までどおりの踏襲をするなら作品の中身から考え直す必要があります。ビデオは手軽に作れるから小品が多くなったとよく言われます。昔のように映写会のために、1年もかけて作った作品にはついぞお目にかかったことがありません。

そのような情熱は私を含めて皆さんもうお持ちではないのじゃないですか。OMCの特徴は「見に行っても損をしない内容のある作品群」だった筈です。それが不可能なら別の特色を模索する必要があるでしょう。例えば、追悼映写会でフィルムより明るいビデオ映写をしたことも一つです。今年は間に合わないしても、デジタルビデオによる撮影、上映でワイド画面で見せるなど、他にない特色を出して観客を増やすことなどが考えられます。口では簡単に云っても、考えられるハードの可能性(16×9)を利用するには、ワイドの画角から研究を始めなければなりません。所詮、過去の踏襲は年寄りの遊びに過ぎません。もっとナウイ感覚のフェスティバルをお互いに考えていきませんか。(有村記)

★4月例会レポート

大型連休に入った27日、出席者が少ないのではと心配しながら阿倍野学習センターで開催しましたが、それでも今月から新人会された2名の方を含めて11名が集まりました。でも作品の少ないのが残念です。ビデオはフィルムに比べると、比較的簡単に作品作りが出来ますので、1本でも多く作品を持ってきてほしいものです。

〈上映作品〉

1. 「赤目四十八滝」 石垣 禎章氏 4分30秒
新人会された作者が、前に所属されていたクラブでの撮影会作品の処女作とのことです。秋の溪流を三脚でガッチリ撮影し、要領良くまとめられた佳作です。画質の劣化が甚だしいのが残念でした。
2. 「東大寺」 関 剛氏 4分30秒
最初にBGMを決めて、そのイメージに沿って映像を編集されたものと。OVCの撮影の映像を中心に作者独特のカメラアイと特殊効果を駆使して抽象に近い作品に仕上がります。強烈な個性が前面に随所に出ていたのに、そうでもない撮影会での映像がこの場合必要以上に邪魔しているように思えたのは私だけでしょうか……。
3. 「九州還暦の旅」 合原 一夫 13分
奥さんが還暦を迎えた同窓会に出席するために、小型ビデオカメラを持って九州に行かれた旅行記です。太宰府、阿蘇山、柳川の川下りなどでは、同窓会での懇親状況など盛り沢山のエピソードを要領よく纏め、奥さんのナレーションも分かりやすく良かったと思います。さすがフィルム以来、長年培った作品制作での夫唱婦隨がものをいったのでは、という声も聞かれました。
4. Shall We Dance 有村 博氏 4分
労多くして結果は「何でこんなもの作ったんやろ」とは作者の言葉。百枚近い原画を切り抜きで作り、テロップを通してコマ撮りしたり、VX1000でオーバーラップを重ねて撮った、花のダブリを入れたりした、ただそれだけの作品です。これでも見てもらえる仲間がおられるのが有り難い。自己満足の本物みたいな作品でした。

以上で会員さんの作品の上映は終わり、来る6月に予定されている撮影会の参考作品として上総さん提供のPRビデオを上映しました。

「長良川河口堰管理ビデオ」

9分

☆会の運営の補助として、越本 吉太郎さんから¥30,000の御寄付を頂戴しました。有難うございました。後に続くお方がおられましたら大歓迎です。

☆新しいお仲間が入会されました。どうぞよろしく願いたします。

石垣 禎章氏 〒577 東大阪市荒川2丁目4-3 TEL 06-721-8732

井田 元晴氏 〒577 東大阪市俊徳町1丁目4-4 TEL 06-728-3820

(有村記)

5月例会のお知らせ

5月例会は25日(第4土曜日)午後6時開会。阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)、地下鉄谷町線「阿倍野」駅7番出口すぐ。作品を沢山見せあって楽しい例会にしましょう